



マークベースは、イタリアの東海岸、ブーツに喻えた際のふくらはぎあたりにあるベスカラという街に工場を構える。ヨーロッパの避暑地とも言える非常に美しい街だ。年に一度、海岸でジャズ・フェスティバルも行なわれ、音楽も盛んな土地柄でもある。



今回、工場を案内してくれたのはゼネラル・マネージャーのマルコ・デ・ヴァーシリス（左から3番目）。彼の実弟や夫人を含めたファミリー・ビジネスとしてマークベースは運営されている。写真左端は、今回の取材をコーディネートしていただいた荒井貿易の古田氏。

Mark bass

amplifier

今月の
注目
ブランド

◎商品のお買い合わせは……荒井貿易（☎052-711-3311）
◎<http://www.ariaguitars.com/jp/02prod/04mark/>
◎<http://www.markbass.it/>

レイアウト：D.tribe 翻訳：深澤貴 協力：荒井貿易

楽器ブランドには珍しいイタリア産という出自と、イエローカラーを基調としたポップなデザインで2001年に衝撃とデビューしたアンプ専門ブランド、マークベース。オーディオ・スピーカーなどで定評のあるイタリア産ブランドらしく、そのトーンは非常に上品でクリアかつナチュラル。ハイファイ/ハイパワー時代を通過し、次なる躍進を迎えんとするベース・アンプ・シーンで、新たな指針を打ち出すブランドとも言えるかもしれない。今回は、イタリア現地工場を訪れ、その製作現場や基本理念、さらには今後の展開などについて伺ってみた。

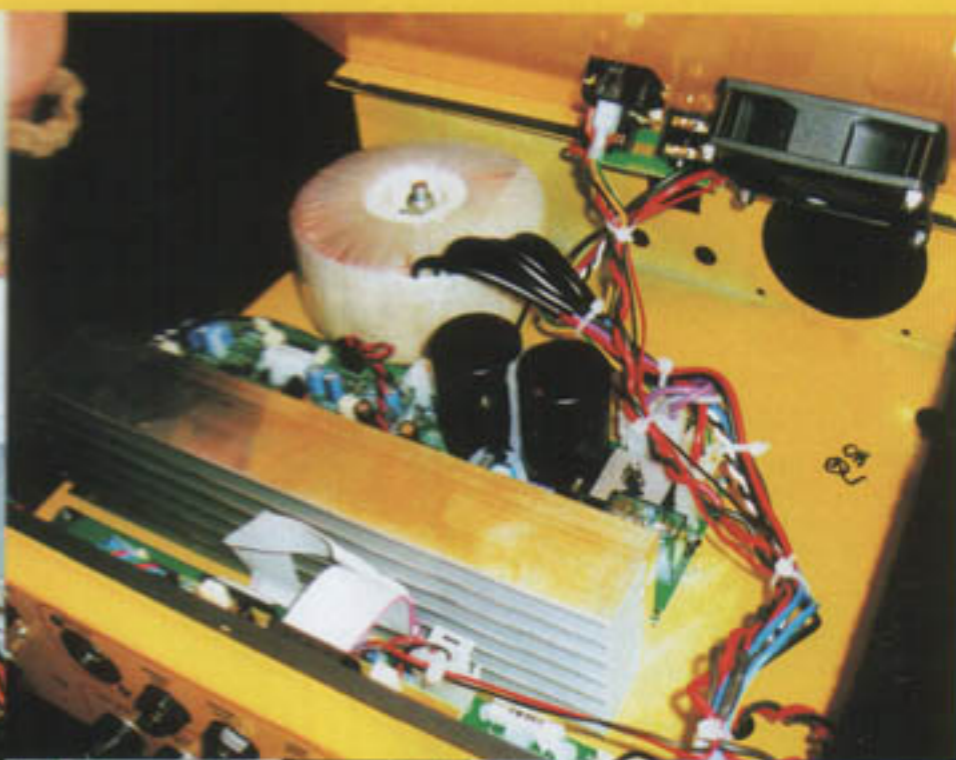


こちらで製品の安全テストが行なわれる。まずは製品のシリアル・ナンバーで区分し、電流を流すEテスト、オフセットのチェック、プロテクション・テスト、ゲイン・テストなどが順番に行なわれる。さらに、レスポンス・テスト、周波数テスト、ドライ・テスト、漏電テスト、耐熱テストなどなど、徹底した製品管理・安全管理がなされる。将来的にはディストリビューターにこれらのテストをしてもらうことも考えているそうだ。

こちらは倉庫。アンプ類以外にも、さまざまなアクセサリー・グッズが在庫されていた。なかでも、下写真のベースキーホルダー（アンプの外壁にマジックテープで貼り付け、ベースを固定させる）や、マーク・スタンド（アンプをキックバックで固定させる折りたたみ式のスタンド）などなどのアイディア商品が目につく。今回は特別に、これらの商品を誌上で紹介してくれた（詳細はP.130）。



マークベースのオフィスは、エントランス、社長室、写真撮影室、試奏室などに分かれ、製品管理やマーケティングなども行われている。まだ規模は小さいながらも、豊富な経営管理を行なっている。マークベースのブランドの精力的な事業展開とマーケティング者としての理念がうかがえる。



別棟に位置する工場では、この日は4人の工員による作業が行なわれていた。50坪ほどのスペースで、全製品の製作が行なわれ、1ヵ月で500アイテムほどが生産されるという。タイプにもよるが、20~25分で1台のアンプを製造する作業システムを作り上げている。

写真上は小型ヘッド・アンプであるLITTLE MARKの内部。詳細は企業秘密だが、各パーツはいずれも高品質のものを使用しているとのことだ。そして写真下は、開発中のジョン・テイラー・シグネチャーのヘッド・アンプ。パイアンプではなく、イコライザーによってモノラル2種類のサウンドを出力する構造となっており、基本的な音はチューブ・コンプレッションの効いたトーンとなっている。マークベースでは特に真空管にこだわり、ユーゴスラビア産の高品質なものを採用しているとのこと。



こちらは試奏用にマウントされたヘッド・アンプ群。最上段は、従来製品のBASIC P501。2段目はイタリアではすでに流通している新製品のT902で、パイアンプを採用し、低域から高域までを幅広くカバーするモデル。3段目はHT503のプロトタイプであり、現在イタリアで市販されているものとはコントロールが異なっている。なかでも WARM Filterと名付けられたコントロールが目玉であり、同社独自のVLE（ロー・パス・フィルター）との組み合わせで豊かなサウンド・バリエーションを得られるとのことだ。最下段は、前述のジョン・テイラー・シグネチャー。



マークベース・エンドーサー

マウリッツォ・ローリ

マークベースはミュージシャンのリクエストを聞く耳を持っているんだ

今僕はマークベースのエンドーサーをやらせてもらってるんだけど、そのことはとても誇りに思うよ。最初、マルコがアンプ製作を始めたばかりのとき「どんなアンプが必要だと思う？」って聞かれて、自分でも信じられないようなことを言ってしまったんだ。「エレキ・ベースとアコースティック・ベースを同時に使えるアンプが欲しい」ってさ(笑)。それで彼はパーセクというブランドを立ち上げアンプを作った。インプットがふたつあって、ふたつの違う楽器をプラグインできるものだった。まさに2本のベースで使えるアンプだったわけさ。パラメトリック・イコライザーにたくさんのパラメーターがあって、とても複雑なものだった。それに、とても良いコンプレッサーも内蔵していたな。彼はそれから現在に至るまで、そのときのアンプをシンプル化しているとも言えるんじゃないかな。今のマークベースは、簡単に使える上にベストなクオリティを出せる製品になっているね。

94、95年頃、彼はとても大きなアンプを作ってきて、「そんなに大きいのだと、持ち運びに背中や腰を痛めるから、もっと小さくて軽いアンプを作ってくれよ」って頼んだんだ。そしたら毎回どんどん小さく軽くなるんだよね。マークベースはミュージシャンのリクエストを聞く耳を持っているんだ。

2001年のイタリアのミュージック・ショーで、マークベースのブースを探していたときのことは忘れられない。誰かがブースで演奏しているはずだと思いつつ探していたんだ。そしたらベースの音が聞こえてきた。で、その音にすごい低音域があるんだ。こんなの聞いたことないよ！こんなに低音が出るなんて！って感激してさ。あの低音のバイブレーションにはシビれたね。

今僕は280Wのsmallタイプ、LITTLE MARKを持っているんだけど、こいつもやっぱりすごい低音が出るよ。あと、僕は楽器を持ち替え、プラグを挿し替えるたびにイコライザーを変えるのは嫌なんだけど、その点LITTLE MARKは、そうじゃなくていいぐらいトーンが安定しているから重宝してるよ。

「ジャコ・パストリアスに捧ぐ
〜ムードスウィングス〜」
マウリッツォ・ローリ
ローフィンク・スピリット/
RKCT-2500



ここでマルコの友人である、プロ・ベーシスト、マウリッツォ・ローリが工場を訪れた。彼は一昨年にジャコ・パストリアスのトリビュート・アルバムを発表し話題を集めたテクニシャンだ。ジム・ホール、マイク・スターン、ボブ・ミンツァーらとの共演をこなし、このベスカールで音楽学校の教師を務める彼に、マークベースについてのコメントをいただいた。